

2016年2月1日

## ミュンヘン再保険会社とメタビオタ社間の協力でエピソード・リスクについてのリスク移転ソリューションを推進

ミュンヘン再保険会社はサンフランシスコに本拠を置くメタビオタ(Metabiota)社と長期の協力契約を結んだ。同社はエピソード(epidemics: 地域的な一時的な病気の流行)についてのデータ収集をリアル・タイムでおこない、総合的なリスク分析をおこなう技術のパイオニアである。エピソードは生命保険分野では常に問題になっていたが、損害保険ではほとんどの場合エピソード・リスクは免責されてきた。現在、ミュンヘン再保険会社はメタビオタ社から提供されるデータと分析に基づいて、エピソードによって引き起される経済的損失を軽減できるように損害保険分野でモデルを構築し、保険によるソリューションを開発することを目指している。このソリューションは個人が通常の生活に戻れるようにし、国全体の経済やビジネスの回復を助けるものである。

エボラ出血熱(Ebola)、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)などのエピソードは個人の健康や生命への重大な脅威になる。しかし、これら感染症は国全体の経済や企業の損益収支にも重大な影響を与える。例えば、2015年に韓国で中東呼吸器症候群(コロナ・ウイルスによる感染症)が大流行した。この時に外国からの訪問客数が40%減少したが、これにより最も影響を受けたのは同国のサービス業界や小売業界であった。エピソードで訪問客数が激減すれば、日々最大800万米ドルにおよぶ売上のある大型レジャー施設やホテル業界が被る経済的損失の大きさは容易に想像される。ミュンヘン再保険会社はエピソードの影響を大きく受けるサービス業、旅行業などの産業のために新しいタイプの損害保険カバーを開発しつつある。これはミュンヘン再保険会社による保険引受の限界を超えようとする努力の新たな一歩である。しかしながら、世界的な規模のパンデミック(pandemic: エピソードよりさらに広範囲に国中または世界中に拡がる流行)については、罹患者の累積数が極度に大きくなるため、保険業界で今後取り組むべき大きな挑戦課題として残っている。

メタビオタ社の創立者で最高経営責任者(CEO)であるネイサン・ウルフ氏は「エピソードは一度限りのものではなく、異常自然災害と同じようにそれ特有の発生パターンを示している。異常自然災害によって発生する事態はさまざまに特徴があるが、それに対する保険手当てはできている。それと同じように、エピソードも保険手当てができないことはない」とし、「当社は感染症のデータを集積しつつある。それはエピソードが引き起す経済的な損失を抑えるための財務的なメカニズムを開発するのに役立つはずだ」と述べた。

ミュンヘン再保険会社の、中国・韓国・東南アジアを担当するアジア・太平洋地区最高責任者、トビアス・ファーニー氏は次のとおりコメントした:「ソリューションを探すためには、まずデータ分析から始めねばならない。それにより、感染症がさまざまな業界にもたらす直接、間接のコストをより正しく理解することができる。当社はメタビオタ社と協働して、この点についての実態を把握し、エピソード・リスクについての理解を深め、その影響の数量化能力を向上するつもりだ。当社が最終的に目指しているのは、エピソードが地域やその経済に与え得る経済的影響についてのモデルを作り、保険による適切なソリューションを提供できるようになることだ」と。

ミュンヘン再保険会社は、エピソード・リスクを私募債の形で投資家に移転する革新的なソリューションを仕組むためにメタビオタ社のデータとリアル・タイムにモニタリングする能力を既に利用している。また韓国での感染症である中東呼吸器症候群(MERS)を対象とする保険カバーのためのデータ分析についても同社と協働している。

### メタビオタ社概要

2008年に設立。本店所在地はアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ。従業員数120名。